

「殺生石」物語考

物語の概略 ①

保延三年（一一三七）九月二

十七日、那須野ヶ原の東には三浦介義純が、西には上総介麿常北には那須宗重が陣取り、それぞれが、着込腹巻、小手、臍当、色鮮やかな狩衣に烏帽子鉢巻、行藤に身を固めた。

三浦介は連銭葦毛の馬、沃懸地の鞍に跨り、手と背には、諏訪明神授与の白木の弓と征矢を携え上総介麿常も又、栗毛の馬に螺鈿の鞍を置き、手には、高良明神授与の大槍を携えた。

阿倍泰親は、紫の腹巻に真っ赤な陣羽織を着して壇上につけて修法を始め、九尾の狐の飛行の術を禁じた。

やがて、三浦介が東方より、西方からは上総介が、北からは宗重が手勢を動かした。南からは五十の騎馬と六千人の列卒が、九尾の狐を追い出すために、鉦を鳴らし太鼓を打って、割り竹を叩きながら、法螺貝を合図に、同時に鬨の声を上げた。鳴り物も一斉に起きて、天に響き、地

が裂けるばかりであった。

夜は松明を野に放ち、炎が天を焦がした。

三日目の午後、金毛九尾白面の妖狐が姿を現す。頭部より尾までの全身は、五米以上にも及んだ。妖狐は瞬間に、突進した列卒二十三人を蹴殺し、人馬を噛み殺した。三浦介は諏訪明神の弓矢を切つて放つた。矢は一振り揺れながら、妖狐の脇腹に深く立ち、反撃しかける妖狐の首筋に鋭く、二の矢が立つた。と、同時に、上総介が高良明神の鎧を振るつて、妖狐を仕留める。二人が大音声で呼ばわると兵卒たちは我先に折り重なつて、突いたり切つたりした。すると、妖狐の屍は、見ているうちに巨石に変わり始め、石に触れた列卒が、ばたばたと倒れ始める。これを見た泰親はすぐさま、宗重に命じて囲いを作らせ、近寄ることを禁ずる立て札を立てさせた。

筆者 前那須歴史探訪館 館長

齊藤 宏寿 先生(湯本在住)

今月のひとこと

ボリュームを一際上げし広報車
村の畑に熊出没す

かつこう

朝晩涼しくなり、町内では彼岸花やコスモス、稲刈りとすっかり秋の景色です。那須町にはカフエがたくさんありますが、「おいしい那須めぐり」(28頁)のコーナーでは、おいしいものと一緒には素敵な人や温かい気持ちなども伝えたいと思っています。「食欲の秋」。今月もまた一つおいしい那須を見つけてきました。

◎

今年の彼岸花まつり(27頁)は、例年の開花状況から1週間早めての開催。しかし、猛暑の影響が例年よりも開花が遅れ、祭当日はまだ1割程だった。主催者側は少し残念そうだったが、見頃が過ぎていたよりかは、「これからだ」という期待と楽しみが持てた方が訪れた者としては良い。また来よう。高く空が澄み渡る秋空のもと、田園風景とわずかなに咲いた彼岸花、おもてなしのすいとなを頂きながらそう思えた。

◎

「運動の秋」。町内7保育園でも運動会が行われました(27頁)。競技を元氣いっぱい楽しむ園児たち。その姿に、保護者や家族地域の方はみんな笑顔でした。涼しさを感じられる運動に最適な季節。適度な運動は、心身ともにリフレッシュできます。また、秋は新米、サンマ、キノコ、カボチャ、リンゴ、栗などおいしいものがたくさんです。運動をしていっぱい食べて、秋を存分に楽しみましょう。

◎

こんにちは

赤ちゃん



薄井の梨乃ちゃん
(稲沢)

平成30年
6月20日生

父 邦彦さん 母 舞子さん

梨乃ちゃんは…

食欲旺盛で果物が大好き☆
毎日お兄ちゃんと楽しく遊んでいます!

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。
詳しくは総務課秘書広報係(☎72-6901)まで。

町の世帯と人口

(9月1日現在・住民基本台帳)
()の数字は前月比

・世帯数 10,385世帯 (+ 8)
・人口 25,155人 (-26)
男 12,497人(-5) 女 12,658人(-21)

あなたの「声」をきかせてください

地域の身近な情報や、広報「那須」の感想・ご意見をお待ちしています。
お名前と連絡先とともに下記までお寄せください。